

<https://www.youtube.com/watch?v=cHGd1xpMruc>

さて、おはようございます、ようこそ。 今日ご参加いただき、とても嬉しいです。日曜日の朝は、二つの礼拝を行っており、第一礼拝は、「聖書預言」に捧げています。そして、この第二礼拝は、神の御言葉を節ごとに学んでいます。現在、「テモテへの手紙第二」で、今日の聖書箇所は、3章6節から9節までです。未だの方は、その箇所をお開きください。その間に、いくつかのことをお伝えします。まず、ソーシャルメディア上での出来事について お聞きになっていると思います。実はこれが、数ヶ月前、主から、新しい聖書預言のウェブサイトを立てることを示唆された理由で、これから起こることを予測してのことでした。ですから、そのウェブサイト、JDFarag.org は、何かが起こったときのための、”行き先”になるでしょう。未だの方は、ぜひご覧ください。登録しなくてもかまいませんが、登録すると、通知を受け取れます。通知は、まだ届いていないと思います。まだ通知が届かないのは、私たちが、まだ通知を出していないからです。その点において、ご忍耐に感謝します。もう一つ、これは第一礼拝でも触れましたが、大げさな話ではありません。私はそのように見る人々を責めるつもりはありませんが、しかし、私はこの地球上で最も祝福され、愛されている牧師だと思います。大げさな話ではなく、本気で言ってます。一拍手 いや、本当です。繰り返しになりますが、大げさに聞こえるかもしれませんが、実に本当のことです。本当です。第一礼拝で、聖なる意味で言いましたが、皆さんは私を甘やかしすぎです。いや、本当にそうなんです、私の家族もそうなんです。皆さんの寛大さに圧倒され、多くの方が支援くださり、ただただ祝福されているのです。実は今日は、その祝福の一つを身に着けているのです。私のシャツ、良いでしょう？ ありがとうございます。ありがとうございます。私の色です。私は、冬色（年配者）ですから。でも真面目な話、お礼を申し上げます。あらゆることが起こる前は、、、それを共有する時はいつも、こんなことを本気で言える牧師が少ないとコメントしていました。そして今、これまで以上にそうになっています最後に一つ。もう既に、「最後に」を 言いだしてしまっていますね。私が数週間休んだら、こうなります。こんなことを考えていました。今日、車で教会に来ましたが、最近気づいていなかったことに気がつきました。教会に行く途中、私は、カイルアに住んでいますが、いつもなら、他の教会の礼拝看板を目にします。今日、この教会に来る車の中で、それらの看板を見なかったので、ふと気がつきました。礼拝を行っていないのです。公共施設を借りているため、彼らは集会が出来ないのです。それに気づき、そして、私たちが教会として、どれほど祝福されているか、神に感謝しました。こんなに素晴らしい教会です。もう一度言いますが、こんな風に言うことに うんざりなさないでほしいのですが、皆さんのおかげで、牧師としての喜びを頂いています。なんという喜びでしょうか。そして、この神の教会の牧師であることは、深い特権です。さて、最後にもう一つ。もし、私がこの教会の牧師でなかったら、ここが、私の行く教会だと、良く話してきましたそれほど愛に満ちた教会です。みなさんは、本物です。私は、皆さんをとっても愛しています。では、第二テモテ 3 章、御言葉箇所は 6 節から 9 節です。差し支えなければ、文脈の都合上、1 節から読み始めたいと思います。また、前回第二テモテを学んでから 2 週間ほど経っていますから。ここにお越しの方、もし可能ならば、お立ち下さい。私が読む箇所をついてきて下さい。ご無理な方は、座ったままで結構です。使徒パウロは、実際には警告のような手紙をテモテに書いています。自分の残された日々が数えるほどになったことを知っていたからで

す。もう時間の問題です。パウロは今、人生の最期を迎えようとしています。彼は、レースを走り抜き、信仰のために戦い抜きました。そしてこれは、彼が信仰の息子と見なし、深く愛していたテモテへの、別れの言葉です。そこで、彼は警告していて、聖霊によって書いています。

第二テモテ 3 章

1 終わりの日には 困難な時代が来ることを、承知していなさい。

2 そのときに人々は、自分だけを愛し、金銭を愛し、大言壮語し、高ぶり、神を冒瀆し、両親に従わず、恩知らずで、汚れた者になります。

3 また、情け知らずで、人と和解せず、中傷し、自制できず、粗野で、善を好まない者になり、

4 人を裏切り、向こう見ずで、思い上がり、神よりも快樂を愛する者になり、

いつも SNS に投稿し、あ、ごめんなさい、それは書かれていません。いや、でも結構適した描写ですよ？ ごめんなさい。

5 見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定する者になります。こういう人たちを避けなさい。

6 彼らの中には、家々に入り込み、愚かな女たちをたぶらかしている者たちがいます。その女たちは様々な欲望に引き回されて罪に罪を重ね、

7 いつも学んでいるのに、いつになっても真理を知ることができません。

8 たぶらかしている者たちは、ヤンネとヤンブレが モーセに逆らったように、真理に逆らっており、知性の腐った、信仰の失格者です。

彼らは墮落した心（邪悪な心）を持つ人たちであり、信仰という観点から見て、拒絶されます。

9 しかし、彼らがこれ以上先に進むことはありません。彼らの愚かさは、あの二人の場合のように、すべての人にはっきり分かるからです。

待ちきれません。ご一緒に祈りましょう。天の御父よ 感謝します。今日、私たちの前にあるこの箇所、あなたの御言葉に感謝します。主よ、今、聖霊が私たちの注意を引き、集中力を保ち、私たちの人生に語りかけてくださることが必要なのです。気が散るようなものや、心がさ迷うようなものは望みません。今日、あなたが私たちに教えてくださることを見逃したくはないのです。特に、私たちの前にある御言葉の箇所は、時宜を得たものだからです。あなたの御言葉は、活き活きと活力を与えてくださいます。主よ、私たちはそれに感謝します。そして、共に過ごすこの時間を祝福してくださるようお願いいたします。イエス様の御名において、アーメン、アーメン ご着席ください。ありがとうございます。今日は、邪悪な動機や墮落した心を持つ者が、クリスチャン生活や教会生活にもたらす危険性について お話ししたいと思います。そして、繰り返しになりますが、これが、パウロからテモテへの最後の言葉であることを 理解することがとても重要です。つまり、彼はもう時間の問題で、残された時間がわずかだと知っているのです。テモテの立場で考えてみてください。彼は人生のほとんど、恐らくは全人生を、使徒パウロと共に過ごしたのです。テモテもまた、自分の師である使徒パウロがいなくなる日は そう遠くないことを知っています。だからパウロは、息子を愛する父親のように、彼に警告し、彼を落ち着かせ、何が起こるのか自分が知っていることへと 彼を備え、準備させようとしているのです。今朝、使徒の働き の 20 章について考えていました。かなり強烈です。使徒パウロが、エペソ人への手紙で、「自分がいなくなれば、何が起こるか分かっている」と記している箇所です。羊の皮を被った狼が、会衆の中から出てくると警告しています。つまり、もう教会の中にいるということです。皆が隣に座っている人を見ている姿を想像して見てください。因みにそれはしないでください。

「あなた方の中から、容赦なく群れを荒らし回るものが出てくる。」（使徒の働き 21:29 参照）

そして、彼はこう言いました。使徒の働き 20 章 23 節だったと思います。

「私が三年間、昼も夜も涙とともに あなたが一人ひとりを訓戒し続けてきたことを 思い起こして、目をさまして下さい。」（使徒の働き 20:31）

私がいなくなった後に、彼らが入ってきて この働きを、教会を、あなたがたの信仰を破壊しようとしているのを知っているからです。イエスが敵のことを、「盗み、殺し、滅ぼしに来る」と表現されたのをご存知ですか？ こんな風に考えたことがありますか？ 敵は、あなたの希望を盗む。彼は、あなたの喜びを殺し、あなたの信仰を破壊する。希望、喜び、彼は、あなたの車なんかを盗むつもりはありません。敵は、あなたの車は要りません。くだらない例えだとは思いますが、でも要点はわかりますよね？ あなたの希望を盗み、あなたの喜びを殺し、あなたの信仰を破壊し、難破させます。それがここで、使徒パウロの、自分が息子とみなして愛しているテモテへの心情です。「テモテ、私にはもうそんなに時間がないのだよ。くれぐれも注意してほしいのです。しっかりと準備をし、落ち着いていなさい。なぜなら、私がいなくなった後に、何が起こるか分かっているからなのです。」皆さんも理解しないといけないのは、テモテについて私たちが知っていることです。彼は、恥ずかしがり屋で、威圧されやすく、あえて言うなら、人に流されやすく、臆病で、内気なタイプです。だからこそパウロは「臆病になってはいけません。」と言っているのです。神はあなたがたに、人を恐れたり、人に威圧されたりするような臆病な霊を与えられたのではなく、力と愛と、よりよい訳では、鍛錬された霊を与えてくださったのです。（テモテ第二 1:7 参照）私たちは子供を躱ける時、彼らの心を躱ける必要があります。それが彼がここで言っていることです。このように枠組みにしたいと思ったのは、使徒パウロの、テモテに対する心を理解すると、テモテへの警告の中に、パウロの心が見えてくるからです。そこで、この学びの準備をする中で、あることに心を打たれました。このパウロの警告を、神が、啓示され、聖典に含める必要があるレベルまで上げられたことと考えてみてください。テモテへの手紙にある通り、パウロが、テモテに警告したいと思っていることは たくさんあったはずですが、にも関わらず、彼は特にこの事をテモテに警告しています。これが、パウロにとって、最も重要なことだったのは 明白だと思います。隙のある者や、弱者を食物にする、墮落した心を持ち、邪悪な動機を持った者たち。そこで私が共有したいことは、今日の聖句の中から、墮落と腐敗に完全に屈した者たちを、まず第一に見極め、見抜き、第二に警戒するための4つの方法です。1つ目、6節です。愚かな女たちや弱者を畏にはめ、支配します。ここでパウロはテモテに、彼らは、騙されやすい者をたぶらかし、支配しようとしているので、見極め、見抜くことができる、と伝えています。パウロは、”女たち”と言っていますが、の方々、どうぞ気分を害さないでください。これはあなただけに限らず、騙されやすい、脆弱な、気の弱い人を指します。実際に彼らは、そういう人たちに引き寄せられるとさえ思います。鉄を引きつける磁石のように。こんな言い方より、もっといい言い方があるでしょうが、彼らは、嗅ぎ取ることができるのです。彼らは、遠くからでも、脆弱性や、騙され易さを嗅ぎつけるので、それがそもそも、そういう人々を捕らえる理由です。何が悲しいか分かりますか？ 多くのクリスチャンは世間知らずで、こんな風に、自分の道にすり寄ってくるものは、何であっても、誰であっても信じてしまいます。つまり、彼らは疑うことをしないので、実際、危険信号の一つとしては、受容性があるということです。「彼らの性格には何かがあるよね！！すごい！！」 気をつけてください。彼らには、策略があります。彼らの意図は、悪意に満ちた極悪非道なもので、あなたが被

害者になると見抜いています。問題は、あなたが、彼らを加害者として見抜けるかどうか？です。これが、彼らを見抜く方法です。これが、その方法なのです。彼らは、それを探し求めていて、再度、これは「使徒の働き 20 章」にあります。皆さんぜひ、「使徒の働き 20 章」を時間をかけて学ぶことをお勧めします。パウロが、そういう者たちを見抜く方法を語っています。なぜなら、彼らは常に、イエスではなく、自分たちのために弟子を募り、引き寄せているからです。彼らは巧みに操り、捕らえて、支配しようとします。彼らは、あなたが弱者と分かると、自分たちの元へ引き寄せ、自分たちの弟子にし、あなたの人生を支配していくのです。こういうのが、墮落した心と邪悪な動機を持つ者たちです。彼らを見ると直ぐに見分けられるよう、しっかり識別力を持っておくのが良いでしょう。2 丁目、7 節。これは面白いですね。パウロは、彼らはいつも学んでいながら、真理の認識に達しないと書いています。さて、これは加害者、つまり墮落した心を持つ者を指しているのか、それとも被害者、弱者で騙されやすい人のことを指しているのか、意見が分かれます。

私は、これは必ずしもどちらか一方ということではなく、おそらく両方であると思います。その理由を説明します。加害者側では、そう、いつもこのような形で出てきます。彼らはいつも、自分が話していることを本当に理解しているかのようにやって来ます。言わば、それも計画の一部なんです。そして被害者の側は、この言葉は”ハイジャック”されている（乗っ取られている）のであまり使いたくありませんが、”ハイジャック”と言ってすみません。その言葉も使うべきではないですね。これらの加害者の被害者は、それになりうるのも、真理の知識がないから、それがそもそも彼らを脆弱にしているのです。どうかお聞きください。実は、これが私の言いたいことなのです。では、加害者に話を戻しましょう。彼らは、真実を程よく入り混ぜているので、それが正しいかのように聞こえます。エデンの園で、蛇がエバにしたことに似ています。サタンは、皆さんよりも聖句を上手く引用できます。それはご存知ですね？ 彼は、皆さんや私よりも聖句をよく知っています。だから彼がするのは、それを大変 ” 巧妙に ~ ~ ~ ” に引用すること。効果音をつけてすみません。でも、意味はわかりますよね？ なので、それは正しく聞こえます。エバを思うと、神は ” 触ってはいけない ” とは仰いませんでした。蛇はそう言いました。「神は、本当に言われたのか？」そしてエバは、「神は、この木から食べてはいけない、触れてもいけない、と仰いました。」と。ちょっと待ってください。それ（触れてもいけない）は、神の御言葉にはありません。それを正しいことのように聞こえるよう、真実を混ぜ込んだ、敵の惑わしの餌食となってしまったのです。そしてそれを信じてしまいます。ここからが本題です。皆さんが、今日のクリスチャンにとって、最大の問題ではないとしても、最大の問題の一つは何だと思いますか？ と私に聞かれるなら、それは聖書に無知であることです。同じことを、別の方法で言わせてください。私たちが、神の御言葉を知らない、カモにされてしまいます。サタンは、神の御言葉を知っているだけでなく、皆さんが、神の御言葉を知らないことも知っているということを理解しなければなりません。彼は、何をすべきかをよく知っているのです。ライオンのように獲物を付け狙い、非常に辛抱強く、攻撃に最適な時を待っている記述があります。（第一ペテロ 5:8 参照）

「あ〜、今落ち込んでるぞ。」「彼らは孤独で孤立している。落胆して 疲れているぞ。」「彼らは落ち込んでるぞ。」リストは挙げ続けられますが、必要ないですよ？ 「今だ！」そして襲いかかってくる！ そして捕まってしまう。エペソ人への手紙の、使徒パウロのことを考えます。私たちは、いつもその話をします。霊的な（神の）武具の有名な一節： 救いの兜、正義の胸当て、真理の帯（因みに、これがすべてのものを束ねます）、平和の福音の履物、御霊の剣、信仰の盾。そしてあなたが、

比喩的にこの靈的な（神の）武具を着けた後、パウロは何と言っていますか？「立ちなさい！堅く立ちなさい！」です。そして、敵が来ます。「あら～お元気ですか？ひひひ」「今日は少し落胆しているようですね？「そうなんです。」「望んだような結果にならなかったのかな？」「そうなんです。」「ふーん。神は、何と言われたのですか？そして、あなたは...「分かりません。」「何が起きたか分かりますか？ 敵は、聖書に無知な心に、疑いの種を植え付けたのです。そしてその無知な心は見極めることができず、こう言えないのです。「ちょっと待った。それは真実でははない！」「それは真実ではない！惜しかったな。私の前からうせろ！」「神は、そんなこと言っておられない。」「お前が何をしようとしているか分かっている。気づいているぞ。惜しかったな。」繰り返しになりますが、こう考えてみてください、これが得るべきことです。神の御言葉に、御言葉の神に、堅くしっかりと立つこと大変重要なのです。あなたは不動の存在、あなたは堅く立つのです。敵は、あなたにそんなことはできません。またそれだけでなく、敵はあなたに惹かれるどころか、近寄りたくもありません。こういう感じです。これには、臨床名があるのは分かっていますが、私は、こんな風に考えています。こんな感じでイメージしてます。敵は、あちこちをうろつきながら、どのクリスチャンを、いつ食い尽くせるか探し回っています。そして、彼は私の所にやってきます。「ダメダメダメ。ここは無理だ。ダメだ。」彼は、試すことさえしません。以前は入ってきましたが、今は違います。今や、違います。「次に行こう。次のところへ。」「おっと～！この男を見てみろよ。ひひひ。彼にしよう。彼女を捕まえよう。」となります。皆さん、これはよく言われるように、牧師がよく話すことです。「口説いな～」と。しかし、私は皆さんに、言わなければなりません。私には分かりません。私は自分自身のことを話しますが、繁栄はおろか、特にこの今の時代で、神の御言葉にしっかり根をおろしていないなら、どうやって生き延びることができるのか、私には分かりません。言わば、この先の日々を如何にして、進んで良いのか分かりません。神が、「クリスチャンだというなら、聖書や祈りにもっと時間をかけなさい！」と仰っているのではないことは、知っておいてください違います。そうではありません。むしろ逆で、こんな感じです。私たちの愛する天の御父は、愛する使徒パウロが、テモテに話しているように、「私はあなたをととても愛しています。」と仰っているのです。御言葉に立ち、御言葉に根ざし、御言葉を知らなければ、乗り越えられないのです。そうしていれば、敵がやってくる時、「出て行け！」と言えるのです。「出て行け！お前の時間の無駄だ！」「来る場所を間違えている。選ぶ相手を間違っている。」愛する天の御父が、これほどまでに愛している人が、不必要にも獲物になるのをご覧になるのが、耐えられないと仰っておられるのです。そうなる必要はないのです。御言葉に堅く立ちなさい！御言葉を知れば、御言葉があなたの中に入り、あなたは護られるのです。あなたは、護られるのです。ところで、面白いと思いませんか？武具の話に戻りますが、唯一の攻撃用武器は、御霊の剣であり、それが神の御言葉です。ここ数週間、主との時間の中で、サムエル記第一、17章に時間を費やしました。聖書の中で一番好きな箇所の一つで、もちろん他の箇所もそうですが、ダビデが、生ける神の軍勢に逆らった無割礼なペリシテ人を殺害した時の記述です。私はその話が大好きです。ダビデに会うのが待ちきれません。ダビデが、ゴリアテに宣戦布告した時はどんな感じだったのでしょうか？彼が戦場に出たとき、相手は彼を見てこんな風に言います。「冗談だろ？」「カメラはどこ？いたずらか？どうなってるんだ？」「お前は何をしてるのか？家に帰れ。」どんな感じだったのでしょうか。ラクダの上のハエか何かになって、当時のこの状況がどうなるのかを見てみたかったです。でも、ほんとうに面白いのです。今まで見て、読んで、何度も教えたことのある詳細が、ペ

ージから飛び出してきました。ダビデの手には剣はなかった（サムエル第一 17：50）と書いてあります。そこで彼がどうしたか存知ですか？ 彼は剣を拾うのです。なんて好都合なのでしょう。ゴリアテが持っていた剣です。どれくらい大きさだったのかまで言われています。敢えて言うなら、デビッドはそれを拾った時、こんな感じだったでしょう。「おお、これは巨大だ！」と。敵の剣を拾い上げて、敵の首を取ったのです。ほ～！ 剣、御霊の剣。神の御言葉は、ただ「出ていけ！お前は終わりだ！」それは、イエスが誘惑された時になさったことではないですか？ お～！ イエスは、40日40夜断食をされていましたね。間違いなく彼は、体力的にも消耗していたし、疲れていたし、弱っていたし、衰弱しておられました。そんな時に、敵が来るのです。興味深いことに、ルカの福音書に書かれていると思いますが、失敗して、サタンは去りましたが、より最適な時期に戻ってくるというのが、この物語のもう一つの、非常に興味深い内容です。つまり、サタンがイエスを誘惑しようとしたのはその時だけではありません。これは記録されていますが、別の最適な時を待っていました。「時が来るまでイエスを離れた。」（ルカ 4：13 参照）つまりそれは、イエスが飢え死にしそうになって弱っていた最適な時だったのです。そこに敵の登場です。イエスは、どのようにして彼を打ち負かし、敵に立ち向かったのでしょうか？ 神の御言葉です！ 神の御言葉。「（御言葉に）書いてある。」「（御言葉に）書いてある。」「（御言葉に）書いてある。」そして、敵は逃げ去ります。

「悪魔に対応しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」（ヤコブ 4：7）

どのようにして？ 神の御言葉＝御霊の剣です。「出ていけ！」と。神の御言葉の真理です。3つ目。先走らないようにしたいのですが、最後の2つに少し時間をかけたいと思います。8節にあります。「彼らは、真理を拒絶し、逆らい、偽造した。」これが興味深いのは、パウロが、「出エジプト記7章」を参照しているからです。モーセとアロンが、ファラオの前に行き、「私の民を行かせてください」と言った時の話です。もちろん、その結末は知っていますね。ファラオにとっては、良ろしくありません。しかし、この7章で、二人の”魔術師”が出てきます。今日の「預言・アップデート」の内容ゆえに、あえてこの言葉（魔術）を使います。魔術師、マジシャン。彼らは、悪魔に憑りつかれた魔術師たちでした。出エジプト記7章でさえ、その者たちの名前は書かれていません。しかし、パウロはなぜか、彼らが何者か、また彼らの名前を知っています。ヤンネとヤンブレだと。なぜ、パウロはテモテを警告するために、彼らのことを持ち出して、この議論へと持っていったのでしょうか？ それは、巧妙な偽造があるからだと思います。どうか、サタンが偽造の達人であることを知っておいてください。サタンは、超自然的なしるしや業を偽造することができます。実際、「テサロニケ人への手紙第二 2章」には、反キリストが、超自然的な領域で、これらの奇跡を行うと書かれています。そしてパウロは、それらを、偽りのしるしや業と呼んでいます。それらは偽造です。それでは、パウロは何を言いたいのでしょうか？ つまり、なぜ彼は、真理に逆らい、拒絶し、奇跡を偽造した二人の男を持ち出したのでしょうか。それが偽造する者を見分ける方法だからだと思います。お聞きください。偽造品は、本物を認証し、証明します。興味深いのは、この二人の男は、ナイル川が血に変えられた時…彼らは同じことをします。偽造です。ここで質問です。「水に戻したらどうですか？」ああ、それはできないのです。 どうしてできないのか？偽造だからです！ サタンは、創り出すことは出来ません。彼は、偽造することしかできないのです。偽造は、それは本物を認証し、証明するのです。だからこそ、70ドルの偽札を見たことがないのです。本物の70ドル札など、存在しないからです。だから100ドル札の偽札が見つかるんですね。偽物は、本物を立証します。昔の話ですが、最近

は「昔の話」と言っても そんなに昔のことではないような気がします、でも実際に、まだ現金での支払いが可能だった頃の話です。あなたが私のような人間かどうかわかりませんが、あなたが現金を引き出そうとすると、「✖」と表示され…「さがれ、サタン！」もう受け付けてもらえません。

『なぜなら、私たちはデジタルキャッシュレスの 獣の印のシステムに移行したいからさ！ガハハ！』とにかく…すみません。「聖書預言・アップデート」が、フラッシュバックしてしまいました。今、戻ってきました。しかし、それは事実ですよ？ 銀行に行って、100ドル札をお願いしても、「えーと、申し訳ありません。不足しております…」 —「そんなわけないだろう！そんな風には言わないで下さいね。「イエスを分かち合ってもいいですか？」となっても、うまく行きませんので。しかし、またしても、これはまた別の機会に。しかし昔は、実は私はここで 深遠な指摘をしようと思っていたんです。昔は、銀行員に、本物に慣れさせ、本物を数え、感じ、触り、匂いを嗅ぎ、本物に馴染ませることによって、偽札の見分け方を教えていました。本物に慣れ親しんできたところで、偽札をこっそりと混ぜます。すると銀行員は、「おっと、何か変な感じがする…」となるのです。「何か違和感があるな…」と私が主との歩みの中で学んでいることの一つは、決して、決して、決して、神があなたを守るために あなたの御霊に置かれる確信に、逆らってはいけないということです。偽造！出エジプト記7章10節から12節を、読みたいと思います。その理由は、すぐにわかります。これは、モーセに対抗して、これらの奇跡を偽造した このヤンネとヤンブレについての記述です。10節にこう書かれています。

出エジプト記7章

10 モーセとアロンはファラオのところに行き、主が命じられたとおりに行った。アロンは自分の杖をファラオとその家臣たちの前に投げた。すると、それは蛇になった。

なんてカッコいいんでしょう。

11 そこで、ファラオも知恵のある者と呪術者を呼び寄せた。これらエジプトの呪法師たちもまた、彼らの秘術を使って同じことをした。

12 彼らがそれぞれ自分の杖を投げると、それは蛇になった。

それがどうしたというのか？ 何が問題なのか？ 私たちもそんなことは出来る。

…しかし、アロンの杖は彼らの杖を呑み込んだ。

神がそういうことをなさる時が、私は大好きです。それが、神がなさることです。「ああ、あなたはそれを偽造することができるのですか？「これを見なさい。これは、偽造することはできません。」結論は何でしょう？ それは、神が常に、最終決定権を握っておられることです！ 皆さんには確信が持てるのです。悪といえば、敵といえば、偽造といえば、例外なく、疑いなく、神の杖が、敵の偽造を呑み込んでしまわれるのです。9節にある、この最後1つについて、残りの時間を使いたいと思います。それは、「彼らの正体が明るみに出される」ということです。私は9節が大好きですこの第二テモテのこの章の9節を、神に感謝します。これが、私が神の御言葉を本当に愛する理由です。それを神がなさるからではありません。それは当たり前のことです。そうですね？理由は、「神がなさる方法」です。エゼキエル書38章について考えてみましょう。よく話している預言ですが、イスラエルを侵略する国々の同盟があるとされている箇所です。ゴグ・マゴグの戦いと呼ばれています。ロシア、イラン、トルコ、イスラエルを侵略しようとしている国々の同盟があり、それは壊滅的なものになるでしょう。つまり、この侵略軍の決定的で迅速な敗北です。それはなんとなく、神が注目を集め

ようとしておられる感じですか。神はこんな感じですか。「敵軍を見てごらんください。」「わかっています！どれだけの大軍がご存知ですか！？」「どれだけの数か見てください。彼らがどれほど強力か見てください。私たちは本当に小さい国イスラエルです…」「分かっている。いい感じだな。」「いいえ、全然いい感じではありません！」「私を見ていなさい。」「これは計画の内だから。」「私が何をしようとしているのかを見て、なぜそれをしようとしているのか、注目していなさい。」「私が彼らを決定的に、迅速に倒すだけでなく、私がそれをしようとしている理由、なぜ私がそうしようとしているかは、彼らが皆、私が何者であるかを知るためである。私が神であり、私が主であると。疑いの余地はない。それは間違いなく、非常にはっきりとするだろう。それが理由であり、私はそれを行うのだ。」紅海のことを考えていました。ああ、私は紅海が大好きです。それはもう一つの話ですね。その記述を読んでいる際には、見落としがちですが、しかし、あなたがそこにいるのを想像できますか？つまりあなたは、10の超自然的な災いがエジプトに降り注いだのを目の当たりにしたのです。そしてあなたは、被害を受けませんでした。そして奇跡的に、エジプトを離れただけでなく、彼らの金（ゴールド）をも手に入れたのです。もちろん、アロンはそれを使って、後に金の子牛を造りますが、今はそんな心配はしていません。なので、あなたがそこに居るとします。あなたはそのすべてを目撃しました。今、この妨害が目前にあります。実際に、かなりの妨害です。それは紅海と呼ばれています。ちなみに、ここにもう一つ問題があります。これよりさらに悪いことに、エジプト人が、あなたを追って来ています。どうすればいいのでしょうか？「わからない！」これは、まずいことになっています。これではうまくいきません。エジプト人に殺されるか、紅海で溺れるかのどちらかです。どちらかを選ぶしかありません。これでおしまいです。♪ 思い出をありがとう～♪ 想像できますか？彼らはもうすでにモーセに対して、どのくらいの時間が経ったのかは分かりませんが、エジプトを脱出した後、そんなに長く経ったとは思えません。あのすべての奇跡を目撃した後、数日後に紅海に来て、彼らは何をするのでしょうか。彼らは、文句を言い始めます。これが、この（荒野を彷徨う）40年の始まりです。そして、彼らの不満はこうです。「エジプトには、墓が足りなかったのですか？」「神は私たちを殺すために、私たちをここに連れてきたに違いない。」本当に？そう思っているのですか？かわいそうなモーセ。彼は、「私は何に巻き込まれてしまったのだろう？」といった感じですがそして、彼は主に向かって叫びました。エジプト人はそこまで迫っていて、目の前は紅海。イスラエル人が、彼を取り囲んでいます。そして、主は言われます。「あなたの杖を取りなさい。あなたが蛇に変えたもの、そう、それだ。」「杖を上にかざして、主の救いを見なさい。」（出エジプト記 14:16 参照）その時、紅海が裂け、イスラエルの民は、乾いた地を歩いたと言われていました。それは、水が分かれ、イスラエルの民は乾いた地を歩いたという意味です。そこで今、あなたはその場にいます。あなたは、「おお、なんてことだ…！！」「これって、私たちが進む道だと思っただけで、そうだよな？」—(笑)—「ありがとうございます、神様。うわー、素晴らしいです。」その後、あなたは乾燥した地面に渡り、エジプト人は追いかけてきて、神はただ待っておられます。そして、彼は紅海を「閉じられ」、エジプト人を殺します。こう仰る方がいます。「興味深いことに、あれは奇跡ではなく、その時期には、よく強風が発生し、水が分かれることもありえた。水かさには実際には浅く、紅海ではなく、葦の海。非常に浅い場所です。」本当に？そうなんですか？まあそれなら、さらに大きな奇跡です。なぜなら、神はどうやって、全エジプト軍勢を浅瀬で溺れさせられたのでしょうか？惜しいですね。私は神の御言葉を知っています。無理な話ですね。（海の真ん中

の) 乾いた地面を、乾いた地面を(出エジプト記 4:22)と書いてあります。紅海と書いてあります。あなた間違っ綴っています。紅海 (Red Sea) です。 e は1つ。葦の海 (Reed Sea)ではありません。一(笑)一 繰り返しますが、私が数週間休むところなのです。話を元に戻します。悪が勝つように見えても、こんにち、悪が勝つように見えませんか? つまり、身近な話です。邪悪な心、悪魔に憑依したサタンの邪悪さ。自然のレンズを通して見るだけでは、 なたしてもこんな感じで終わってしまいます。あなたの前は紅海、 後ろから、エジプト人が(ワクチンを持って)迫っていて、これが終わる方法です。一(笑)一 どうしても「預言アップ」に戻ろうとしてしまいます。 申し訳ありません。再度、この話には意味があります。 どうかご辛抱ください。「しかし、神は。」です。「待ちなさい。頼むよ JD。」ここで私がモデルになります。「私が、あなたを紅海で溺れさせるつもりだと、本当に思ったのですか?」「エジプト人に打ち負かされて、殺させると、本当に思ったのですか?」ゴリアテの首を取るために、あなたの手に渡そうとしている彼の剣で、 私が、ゴリアテにあなたの首を取らせると思うのですか? そんなわけない。」「一体どうしてしまったのですか?」「悪が勝つと思っているのですか?」「わたしを見ていなさい。」「わたしを見ていなさい。」聖句の至る所で、「これで終わりだ」のように思える記述があります。悪が勝利した!悪が繁栄した!悪が勝った!そして、神は仰います。「本当にそう思っているのですか?ふむ。」私の好きな例えの1つは、「詩篇 73 篇」です。

「詩篇」を通して、一緒に学ばれた方々にとって、 なんとという豊かな、神の御言葉の学びでしょう。私たちは、1年半~2年間かけて、「詩篇」を学んだと思います。「詩篇」を学び終えるのに、急ぐことはしませんでした。しかし、詩篇 73 篇にたどり着くと、とても興味深い詩に出くわしました。限界に達したアサフという名の人が、その篇を書いたものです。つまり、この男性は信仰の危機に陥っているだけでなく、 これで終わりだと。もう終わりだ。ゲームオーバー。周りを見回し、そして、私が見るのは悪が勝っていることばかり。それで私はおかしくなりそう。私は今、このような信仰の危機を抱えており、 この中で、神の善を見ることができない。私は、神がこの中で最終決定権を持っておられると思えない。キリストにおける兄弟姉妹にも話しかけられないくらいひどい。私が話せば、彼らをつまづかせることになるから。私には、なぜ神は、悪が勝つことを許しておられるのか、 という疑問があるから。詩篇 73 篇 2~3 節をお聞きください。

「けれどもこの私は 足がつかずきそうで 私の歩みは滑りかけた。」 (2 節)

「それは私が悪しき者が栄えるのを見て 誇り高ぶる者をねたんだからだ。」 (3 節)

言い換えれば、「私はここで、主と一緒に歩み、主を喜ばせているのに、神を冒瀆する隣人が、新品のベンツで帰宅します。」一(笑)一 自分自身を慰めようとしています。私は、そんな支払いをするのを想像できません。いいえ、彼らは現金で支払いました。現金で? 何だって?!彼らは、神を冒瀆しています。そして、私はここで、昔の話ですが、ユーゴで帰宅します。覚えておられますか? まだ支払いが残っていて、私はドライブウェイに車を停めて、こんな風に言うのです。「神よ。どういことですか?「これは正しくありません。彼らは邪悪です。私は、あなたにおいて正義を貫いているのに。」「ちゃんと私は、正義の道を歩んでいるが空しい。」 1 3 節で、彼はそう言っています。

「ただ空しく 私は自分の心を清め手を洗って 自分を汚れなしとした。」 (1 3 節)

「私は 休みなく打たれ 朝ごとに懲らしめを受けた。」 (1 4 節)

「もしも私が『このまま語ろう』と言っていたなら きっと私は あなたの子らの世代を 裏切っていたことだろう。」 (1 5 節)

勘付かれて、私が信仰の危機に陥っていることを知られてしまうから、人と話すこともできない。それが彼らを躓かせるから。これを理解する方法を考えたとき、私にとってそれはあまりにも苦痛でした。考えただけでも耐えられませんでした。17節までは、私は、第二テモテ3章9節と同じように、この、詩篇73の17節が大好きです。

「ついに私は 神の聖所に入って 彼らの最期を悟った。」 (17節)

ただ待つのです。もちろん、今何が起きているかは知っています。私たちにとって不利に見えます。ただ待つのです。因みにもう一つ、注意しておいた方が良い詳細があります。それは、彼が、主の臨在である神の聖所に入った時、ということです。その場所から始めるのがよいでしょう。そうすれば、神は、あなたの注意引き、集中させてくださり、あなたにいくつかのことをお見せになるのです。彼が何を見せようとしておられるかご存知ですか？ 彼らがどう終わるかをあなたに示されます。そして、あなたは彼らを羨み、怒る気持ちから、同情する気持ちになるのです。ほ～！ 詩篇の詩人がそう言っているからです。

「わたしは主の聖所、神の臨在に入りました。 彼は私に、彼らの最期を示されました。」

私は、「ああ、彼らはこれを知っているのですか??？」 「誰か、彼らに言った方が良いです。これが、彼らの最期です。」 「ああ、私はもう彼らに怒っていません。私は決して、うらやましく思いません。彼らに同情します。」そして、これは、こんにちの私たちの日々への適切な記述ではないでしょうか何度も共有していますが、皆さん、私がこれを共有するのに、うんざりされないのをお願いします。しかし、神は、私の心の中で、人に対して深い働きをしてくださっています。私には、もうこれ以上は無理...と、肉の人間になる瞬間があるのです。肉を叩きたいときは、自分が常に肉の中にいると常に分かります。今の言い回しは、なかなか良かったですね。メモにもありませんでしたが。あなたは肉の中にいます。あなたは肉を叩きたいですか？ ではあなたは、肉の中です。あの政治家をテレビで見ましたか？ あなたは「う” ~~~~~」という風です。そして、主は仰います。「あなたは、何のためにそれをやっているのですか？」 「主よ、彼らが言ったことをお聞きになりましたか？」 「はい。しかし私は彼らのために死んだのです。」 「ああ…」人々を、民主党/共和党、右派/左派、保守/リベラル、グローバニスト/ナショナリストとして人々を見ないでください。リストは、いくらでも続きます。よく考えてみると、彼らは、失われているか、救われるか、彼らは、呪われているか、救われているか、なのです。彼らの終わりを見ると、それだけで私は落ち着き、平静になります。その人を見て、私は自分自身に「う” ~~, 神よ、彼らをどうにかしてください！」と言います。詩篇の中のダビデが、敵のために祈るときを考えます。「口の中で歯を全部割って、窒息させてやる！！」実際に彼がそう祈ったわけではありませんが。彼は基本的に、「主よ、彼らを黙らせてください。」と言っています。なので、神はそういう祈りに答えられませんので、考えないでください。しかしこんな感じです。「神よ、彼らをどうにかしてください。神はこう仰います。「分かっています。しかし、それはあなたの思う方法ではありません。私は彼らを愛しているので、彼らを天国に入れようとしているのです。彼らは敵ではありません。敵が敵です。」

「わたしたちの戦いは、血肉（人間）を相手にするものではありません。」 (エペソ 6:12 参照)

最後に、これが最後の最後です。お許しください。少なくとも、この国で目にしたことについてコメントしなければ、大きな間違いを犯してしまうと思います。国会議事堂で起こった出来事と、それに続く就任式。ふ～ つまり、皆さんこれは、敵が自分のために、自分の代わりに、人々を滅ぼし合う

よう仕向ける悪魔的仕業であると、同意されますか？ 敵が休暇を取れるようにです。私たちが、基本的に彼の汚い仕事をしています。これが、全策略です。私たちの戦いは、人間に対してではありません。私たちの戦いは、エペソ 6 章にリストで記されている 4 つの実体： 支配と権威・暗闇の世界の支配者・天にいる悪の諸霊 に対するものです。敵が何をしていた、あえて言うのであれば、成功していることは、彼は、人々を互いに滅ぼすために、煽り、駆り立て、奮い立たせています。

イエスが仰いました。 **「家が内輪で争えば（分裂）、その家は成り立たない。」**（マルコ 3:25）

“分裂した時”。これは典型的ではないでしょうか？ 分裂し征服する。皆さん、私たちが今ここで見た神の御言葉をテンプレートとして適用し、神から与えられた見極め持って、それを見ることが出来ますか？ それが全てです。敵は、盗み、殺し、破壊します。しかし、神は。しかし、神は。あなたが彼らの最期を見るとき、それはすべてを変えます。それはあなたが、彼らを見る方法を変え、彼らのために祈る方法を変えるのです。それがすべてを変えます。ご起立ください。祈りましょう。

主よ。どうもありがとうございます。主よ。今日のあなたの御言葉は、素晴らしいです。もちろんいつもそうですが。私たちが、今経験していることにとってもふさわしいです。もちろんそれは、あなたの御言葉が、生き活きと生きておられ、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに 刺し通されるからです。主よ、あなたの御言葉と、あなたの御言葉の中で過ごした私たちのこの時間が、 私たちの生活の中に、必要な効果をくださいますように。私たちの生活や心の中において、不要なものを切り取り、非常に脅迫的で危険になり得るものを、取り除いてくださいますように。痛みを伴うかもしれませんが、霊的な、超自然的な手術をしてくださいますように。主よ、私たちは、あなたが私たちを愛してくださっているのを、私たちを守るために、私たちがあなたに委ね従う限り、 できること全てをしてくださるのを知っています。ですから主よ、私たちが今日見たことを受け止め、 あなたの御言葉に注意を払うことができますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7